

遊学舎武雄こども園 園だより

2023年（令和5年）度10月号

「172のころ」



先日、食育フィールドワークで親子クッキングを行いました。その時に、あるお母さんからこんなお話をお聞きしました。

「子どもが、せっかく『お手伝いする』って言ってくれているのに、時間がないから『また今度お願いね』と言ってしまうんですよ。だから、こうやって一緒にゆっくり料理をする時間をつくってもらって、子どもも嬉しそうだし、わたしも嬉しいです。」

忙しいなか、日々の家事に追われる毎日で、子どもの気持ちを汲み取ってあげられない、おうちの方にとってはとても切ない気持ちですよね。

でも、子どもたちはちゃんとわかっています。ある日、給食の食器を下げてくれたKくんが、こっそりお話ししてくれました。

「先生！今日の給食、めっちゃおいしかった！それでね、お母さん、毎日忙しかとに、ごはん作ってくれとさね。だけん、ぼくも早く料理できるようになって、お母さんの代わりに作れるようになりたいけん、先生、今度作り方おしえてね。」

温かい心につつまれているからこそ、そんな優しい言葉が出てきたのだと思います。ちゃんと子どもたちには伝わっているんだなあと思った出来事でした。





1人ずつでゆとりとすき居残りの時間。互いにお迎えを待ちながら、こんなほろこりとほこりがありましょ。 「もあ〜」と言いつつも、ふんばりながらの表情で、Nちゃんの伝えたいことに耳と目を傾けようとするHくん。毎週の異なる園外の中では、自然と思いきりのじや、本手に合わせた対応をするコミュニケーション力と、不意なものが育まれるようどす。また年下の子は、小童や老谷々につながり、自分が持つ楽しい関わりを、次は自分が年下の子にしてあげようとする。こんな温かなつながりの中で育ち合う姿がとても微笑ましいこと園での日々です◎

ある日のこと。園庭で遊んでいた2歳児さんが、大好きなブランコに乗り「先生、押して。」と言。「足を伸ばして、曲げてってしたら、動かせるよ。」と言いつつ、その柔らかい背中を押した瞬間、昨年のある場面が蘇りました。毎日お迎え後に、保育園のブランコに乗り「押して」と言っていた我が子。あれもしないと、これもしないと…と頭の中は帰宅後に待っている日常の用事でいっぱい私。そんな胸中を知る由もなく、「あと50回！」と、あどけない笑顔で続ける我が子。いつまでこのやりとりが続くのか、自分で漕いだら楽なのになあ…と、疲れを隠せない私。

しかし、今日、2歳児さんの背中に触れた瞬間、いつの間にかあのやりとりが終えられていて、我が子はもう私の手を必要とせず自分でどこまでもブランコを漕ぐことができるようになっていたことにハッとさせられました。そして、こんなたわいもない日常が、いつか見た風景となっていくのかなあと思い一抹の寂しさを覚えたのです。

今となれば、できなかったことが、愛おしい。「今日で最後だよ。」と誰かに教えて欲しかった、どれだけ望んでも、絶対に戻ってこない時間。

だからこそ私たちは、日々の保育や行事に心を込めて向き合いたいと思うのです。来週行われる The One in the garden には、そんな想いが込められています。ぜひ、お子様の輝きを、一緒に。

おかあさんは春です ずっとずっと春です
 いつかこんなに 離れたけれど
 レンゲのおこうで 待っているようで
 ふりむく心が にじみます
 ママ かあさん おふくろさん

“お母さんは春” 作詞 山川啓介

